



速報！筑波大推薦入試に6名が合格！！

筑波大の推薦入試合格者が12月9日(水)に発表されました。今年は10名が挑戦し6名が合格しました。内訳は右表の通りです。推薦入試に挑戦した先輩たちはみな、長い時間とエネルギーを傾けて推薦受験の対策をしてきました。惜しくも合格できなかった先輩達も、今は気持ちを切り替え次の受験に向かって猛勉強しています。その強さには敬服してしまいます。

学群	学類	合格人数
人文・文化	比較文化	1名
社会・国際	社会	1名
生命環境	生物	1名
	生物資源	1名
理工	社会工	2名

本号は1・2年生のために**推薦入試についての特集号**とします。推薦入試の良い面ではなく、むしろ大変な部分にフォーカスしていきます。様々なことを知った上で、よく考え決めて欲しいと思います。大学への推薦受験には長期的な展望と、強い意志が必要です。しっかりとした決意とともに推薦入試に臨んでください。その決意への参考になれば幸いです。

推薦受験の流れ

皆さんの中には志望する大学が明確に決まっておられ、ひとつのチャンスとして推薦入試を視野に入れ努力している人もいらっしゃるでしょう。ここでは、3年生になってからの推薦入試のおおまかな流れを示しておきます。ただし年度によって若干異なりますので、ひとつの目安としてください。

- ・ 3年の夏休み前 学年集会等で推薦受験に関する説明があります。
 - ・ 夏休み 志望理由書の準備と小論文対策（**推薦受験できるかはまだ未定**）
 - ・ 9月末 前期評定（成績）が決定
 - ・ 9月下旬～ 推薦会議（ここで推薦対象者を決定します）
 - ・ 推薦者決定後 推薦対象者は志望理由書を仕上げ、指定の用紙に清書します。
 - ・ 10月下旬～11月初旬 願書を作成し出願します（今年は11/2(月)～6(金)が出願期間）
 - ・ 願書出願以降 過去問練習・面接練習（担当の先生と何度も練習を行います）
 - ・ 11月下旬 受験本番（今年は11/26(木)・27(金) 学類によっては1日のみ）
 - ・ 12月初旬 合格発表（今年は12/9(水)）
 - ・ 合格発表後 合格者は一般受験生並みに学習、不合格者は切り替えて猛勉強！
- ※ 上記の日程にある日付は、平成28年度入試のものです。

推薦受験には多くの「試練」が・・・

合格すれば早い時期に受験競争のプレッシャーから解放される、というメリットばかりに目がいきそうです。しかし、**推薦入試というのは実際に取り組んでみると、多くの試練を乗り越える必要があります。**ですから、推薦での受験は、どうしてもその大学に入りたいという強い熱意と、よほどの覚悟が必要です。以下にその理由を記します。熟読あれ！

■ 試練 その1 「誰もが受験資格をもつものではない」

皆さんも知っている通り、推薦受験は誰でもチャレンジできるわけではありません。各大学が設定している基準以上の成績（評定平均値）でないと受験できません。また**大学が設定している成績の条件だけでなく、服装や態度など日々の生活の面でも推薦に足る人物であるかどうかを、推薦する側である竜ヶ崎一高（校長先生や進路の先生、学年の先生）が判断し、推薦対象者として選ばれる必要があります。**一つの高校から推薦受験できる人数には制限がある場合がほとんどです。竜ヶ崎一高から同じ大学・学部・学科に受験可能枠以上の人数の志願者がいる場合、誰を推薦するかは9月下旬以降の会議で決められます。

■ 試練 その2 「推薦受験できるかどうか分からないまま始まる」

誰が推薦受験できるのかが決定するのは9月下旬に行われる会議においてです。しかも3年生の前期の成績が出るのは9月末であり、自分が成績基準を満たしているのか分かるのは9月末なのです。しかし推薦受験を考えている3年生は、夏休み中に志望理由書の作成や小論文の対策をある程度始めておく必要があります。3年の夏休み期間は受験生にとって非常に重要な期間です。その貴重な時間を割いて、自分が推薦受験できるのかがどうか分からない状態のまま、推薦受験の準備をしなければなりません。精神的なタフさが要求されます。

■ 試練 その3 「やはり学力！」

推薦入試は学力だけでなく面接などを通して積極性やコミュニケーション能力など「人物」に対する評価があるため「学力だけではない」というイメージがあるかもしれませんが、**しかし実際は学力評価のウエイトがかなり高く、一般入試と同等の学力が必要とされます。**

■ 試練 その4 「気持ちの切り替え」

先輩方の合格率を振り返ると、例年3割～6割弱です。推薦受験にチャレンジして過半数の生徒は不合格となっています。多くのエネルギーと貴重な時間を使って取り組んで受験しています。不合格の知らせは推薦受験者にとっては非常に過酷です。多くの時間を割いてきた分、短い時間での気持ちの切り替えが要求されます。ここでもかなりのタフさが必要となります。うまく気持ちが切り替えられ、その後の一般受験で合格する先輩達も多数います。

■ 試練 その5 「合格しても・・・」

まれに、大学関係者から推薦入試で入学してきた学生の学力が低いという話を聞くことがあります。もちろんその逆で、大学での成績が優秀な推薦合格者も多数存在します。推薦受験者が合格後に学習をペースダウンしてしまうと、一般受験者との学力差が大きく開いてしまいます。現役生の学力は12月から2月にかけて飛躍的に伸びていくからです。推薦で入学したのに大学の成績が悪いというのは、卒業した高校にも入学した大学に対しても大変失礼なことになります。さらに大学側から入学までに行う課題が出されることもあります。このように**推薦での合格者は、合格後も一般の受験生と同等以上に学習する必要があります。**合格すればしたで、推薦受験合格者には独特のプレッシャーがかかるのです。

推薦受験者の条件！

推薦受験にチャレンジするには、大学が設定する「成績」や「履修科目」などの条件を満たすほかに、上記の「試練」を乗り越える強さが求められます。そして**何よりも必要なのは、その大学を第一志望にしており絶対に入学するという熱意です。**推薦受験できる大学を探すのではなく、自分が行きたい大学が推薦入試をやっているから受験するという態度が必要です。

推薦受験の実施要項から

(1) 募集人員及び1校で推薦し得る数

各学類の募集人員及び「1校で推薦しうる数」は以下のとおりです。これに加え、各学類ごとに「推薦要件」が加わります。つまり、推薦要件に沿った入試が行われるということになります。詳細は「平成28年度 学生募集要項〔個別学力試験 推薦入試〕」を参照してください。

学群・学類名	募集人員	1校で推薦し得る数	
人文・文化学群	人文学類	28名	2名
	比較文化学類	20名	2名
	日本語・日本文化学類	10名	1名
社会・国際学群	社会学類	16名	1名
	国際総合学類	20名	1名
人間学群	教育学類	7名	1名
	心理学類	12名	1名
	障害科学類	※①15名	※①2名
生命環境学群	生物学類	15名	2名
	生物資源学類	※②33名	※②2名
理工学群	地球学類	10名	2名
	数学類	10名	2名
	物理学類	15名	2名
	化学類	13名	1名
	応用理工学類	16名	2名
	工学システム学類	20名	2名
情報学群	社会工学類	20名	2名
	情報科学類	10名	2名
	情報メディア創成学類	8名	2名
医学群	知識情報・図書館学類	20名	2名
	医学類	36名	※③1～3名
	※③22名	制限なし	
医学群	看護学類	25名	2名
	医療科学類	12名	2名
体育専門学群	84名	※④4名	
芸術専門学群	35名	※⑤4名	

※①は、障害者特別入試の募集人員(若干名)を含みます(詳細は要項を見てください)。

※②は、専門学校・総合学科特別入試の募集人員(若干名)を含みます。

※③は、医学群医学類地域枠推薦対象(詳細は要項を見てください)。なお、「1校で推薦し得る数」のうち、「1～3名」については、前年度までの過去3年間の筑波大医学類入学者実績(数)が2名の場合は2名まで、3名以上の場合は3名までの推薦を可とします。通知のない高等学校等は1名とします。

※④は、同一競技種目は2名までとします。この場合、男子種目と女子種目は別種目として扱います。競技種目とは、「陸上競技」、「水泳」、「サッカー」、「柔道」、「スピードスケート」などを指します。

※⑤は、同一実技検査科目は2名までとします。

(2) 採点・評価基準

紙面ではすべてを取り上げることができませんので、今回は先輩が受験した学類をピックアップして紹介します。

学群・学類名	小論文	面接
人文・文化学群	人文学類	個別試験(志望専攻分野に対する適応性と理解力を評価します。推薦要件(2)の志願者については、志望専攻分野に関する能力について、その知識と理解力を評価します。)
	比較文化学類	小論文(1)では英語の文章を、小論文(2)では日本語の文章を課し、理解力、思考力、表現力を総合的に評価します。グループ面接(主として人文・社会事象に関するテーマについて、少人数でディスカッションを行い、理解力・思考力や意欲・関心を総合的に評価します。)
社会・国際学群	社会学類	論理的思考力、理解力及び独創性を評価します。個別試験(小論文の内容に関する設問や口頭試問を通して、問題意識、志望分野への意欲、社会に対する関心・理解力・基礎的知識・分析力・問題解決能力、表現力、高等学校での活動状況などを総合的に判断します。)
生命環境学群	生物学類	生物学の問題に対する理解力、論理的思考力、表現力及び英語の学力を評価します。個別面接(生物学に対する考え方及び理解力、特に生物世界や生き物の仕組みに関する広い意味と理解度を評価します。)
	生物資源学類	理解力、論理的思考能力、独創性、表現力を総合的に評価します。個別面接(将来の希望、専攻したい分野とそれに関連した知識と理解度、論理性、積極性等を総合的に評価します。)
理工学群	社会工学類	現代社会の課題や動きに関連する設問に論述形式で解答させ、論理的・数理的な分析力、社会的な事象についての関心の程度、表現能力を評価します。個別面接(小論文の内容に関する設問、志望動機に関する設問などにより、社会事象への関心、英語力や論理的・数理的思考能力など社会工学類での学習に必要な基礎学力を評価します。)
医学群	医学類	英語(読解力・作文力)、数学、理科(物理学、化学、生物学のうち2科目)の総合的学力を測定するとともに、論理的思考力、表現力を評価します。個別面接(医学を志向する動機、修学の継続力、適性、感性、社会的適応力など総合的な人間性について評価します。)
	医療科学類	小論文(1)では英文を、小論文(2)では和文を課し、英語の総合的学力と数学・理科の基礎的学力を評価するとともに、論理的思考力、文章表現力を総合的に評価します。個別面接(医療を志向する動機、適性、感性、社会的適応力等人間性について総合的に評価します。)
芸術専門学群	《実技検査》構成専攻、デザイン専攻：基礎を踏まえたデッサン力、構成力、課題に対する思考力、着想の豊かさ、企画力、総合的な表現力を評価します。小論文(1)と小論文(2)の合計点と面接で評価します。個別面接(芸術に関する関心度や意欲、将来性、社会性をみます。実技検査の自己評価も問います。)	

ここで取り上げなかった学類について興味を持った場合は、筑波大学のホームページで見ることができます(「平成28年度 学生募集要項〔個別学力試験 推薦入試〕」)。